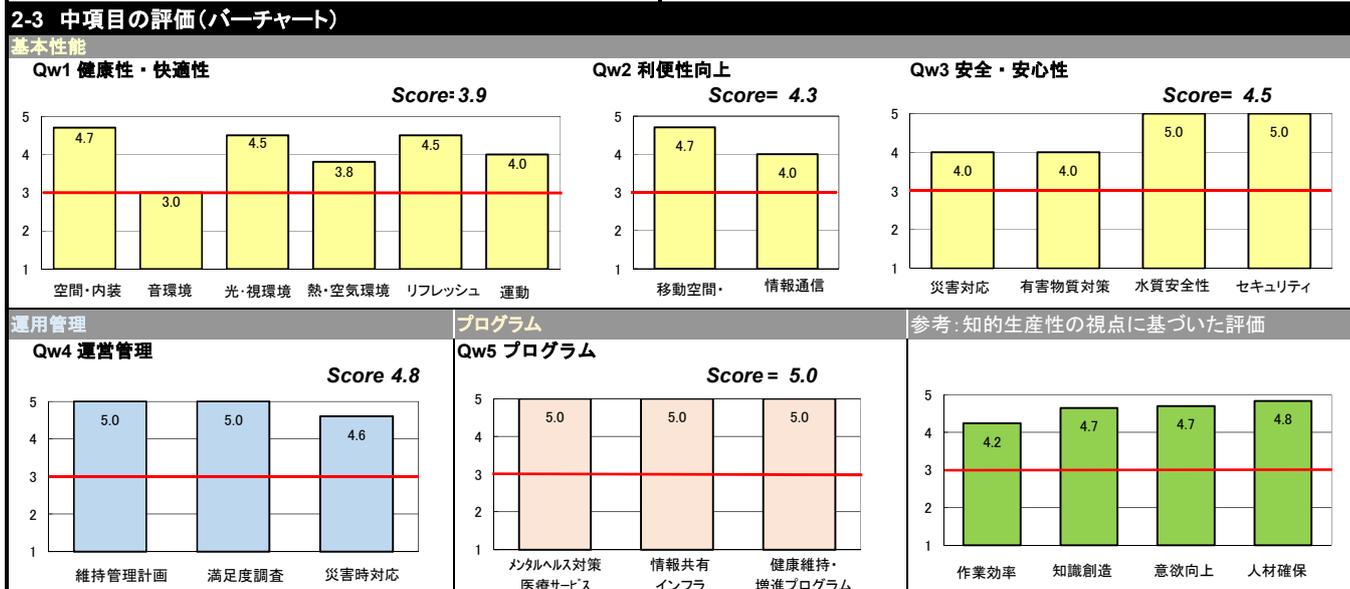


CASBEE®-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-WO_2021(v1.0)

1-1 建物概要				1-2 評価パターン	
建物名称	ダイダン株式会社 北陸支店	階数	地上3階	評価対象	パターン3
建設地	石川県金沢市尾張町1丁目6番15号	構造	S造	1-3 外観	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	25人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,950時間/年(想定値)		
建物用途	事務所	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価		
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年10月28日		
敷地面積	531㎡	作成者	(株)イエタス 佐藤		
建築面積	393㎡	確認日	2021年11月5日		
延床面積	998㎡	確認者	(株)イエタス 佐藤		



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>本建物は、既に竣工し運用している九州支店、四国支店、北海道支店と同様にZEB (ZEB Ready) を目指したオフィスビルである。</p> <p>省エネ性能の向上だけでなく、地域性を考慮しガスヒートポンプの採用、バイオフィリックデザインによる執務室の緑化、グレアを抑えた照明器具によるタスクアンビエント照明を採用することで、利用者個々のニーズに対応できる空間を実現している。</p>		
<p>Qw1 健康性・快適性</p> <p>伝統的な意匠を取り入れ、木質材料を活かした次世代小規模オフィスを目指し、外観は金沢のまちなみに調和し、内装は集成材やCLTなど自然素材を活用している。設備の面ではIoT技術を利用することで、細やかな空調・照明制御が可能であり、オフィスのレイアウト変更にも柔軟に対応できる計画としている。</p>	<p>Qw2 利便性向上</p> <p>カジュアルなコミュニケーションからフォーマルな会議まで、用途によって使い分けられる多様な空間を設けており、全ての執務者にとって居心地の良いオフィス設計を行っている。緑側にはソファを配しリフレッシュスペースとしても利用し、2階と3階の移動は緑側に配置した階段を利用することで活発なコミュニケーションも期待できる。</p>	<p>Qw3 安全・安心性</p> <p>太陽光発電設備、発電機能付きガスヒートポンプ、EV自動車によるV2Bの導入により、非常時においても支店運営が可能な計画としている。また、セキュリティ面においても十分な配慮を行っており、安全性の高い建物を目指している。</p>
<p>Qw4 運営管理</p> <p>BEMS (自社製品: リモビス) によるエネルギーの見える化や綿密な維持管理計画の作成等、快適なオフィス環境の維持に努めている。</p> <p>また、定期的に従業員へのアンケートを実施し、結果に基づき運用会議や定期報告会で改善案を検討することできめ細かな環境改善につとめる。</p>	<p>Qw5 プログラム</p> <p>従業員が、快適に働けるようメンタルヘルスケアや医療サービスに積極的に取り組んでいる。また、コロナウイルスによるリモートワーク拡大で需要が高まっている情報の電子化に対応可能な社内インフラを整備している。</p>	<p>その他</p> <p>2つのコンセプト、「まちなみに調和する外観」、「内観は自然素材を活用したオフィス空間」をもとに、鉄骨造一部木造(集成材やCLT)による建物とした。オフィスの外周に移動空間を配置し、外部との熱環境的バッファゾーンを設け、採光や自然換気を取り入れる設計とした。</p>

スコアシート			
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価			4.4
Qw1 健康性・快適性			3.9
1 空間・内装			4.7
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ		4.0
	1.1.2 荷重のゆとり		3.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性		5.0
1.2 知的生産性を高めるワークスペース			5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画		5.0
	1.3.2 共用部の内装計画		5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス仕器の機能性・選択性		5.0
	1.4.2 OA機器等の充実度		5.0
1.5 広さ			5.0
1.6 外観デザイン			5.0
2 音環境			3.0
2.1 室内騒音レベル			1.0
2.2 吸音			5.0
3 光・視環境			4.5
3.1 自然光の導入			5.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		5.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策		3.0
3.3 照度			5.0
4 熱・空気環境			3.8
4.1 空調方式及び個別制御性			5.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温		4.0
	4.2.2 外皮性能		4.0
4.3 湿度制御			3.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量		4.0
	4.4.2 自然換気性能		3.0
5 リフレッシュ			4.5
5.1 オフィスからの眺望			5.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり			5.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			5.0
5.4 トイレの充足性・機能性			4.0
5.5 給排水設備の設置自由度			3.0
5.6 リフレッシュスペース			5.0
5.7 食事のための空間			4.0
5.8 分煙対応、禁煙対応			5.0
6 運動			4.0
6.1 運動促進・支援機能			3.0
6.2 階段の位置・アクセス表示			5.0
Qw2 利便性向上			4.3
1 移動空間・コミュニケーション			4.7
1.1 動線における出合いの場の創出			5.0
1.2 EV利用の快適性			5.0
1.3 バリアフリー法への対応			4.0
1.4 打ち合わせスペース			5.0
2 情報通信			4.0
2.1 高度情報通信インフラ			4.0

Qw3 安全・安心性		4.5
1 災害対応		4.0
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	3.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能	3.0
	1.1.3 設備の信頼性	5.0
1.2 災害時エネルギー供給		5.0
2 有害物質対策		4.0
2.1 化学汚染物質		4.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		4.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応	-
	2.3.3 土壌汚染等対応	-
3 水質安全性		5.0
3.1 水質安全性		5.0
4 セキュリティ		5.0
4.1 セキュリティ設備		5.0
Qw4 運営管理		4.8
1 維持管理計画		5.0
1.1 維持管理に配慮した設計		5.0
1.2 維持管理用機能の確保		5.0
1.3 維持保全計画		5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書	-
	1.4.2 維持管理レベル	-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		5.0
2 満足度調査		5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		5.0
3 災害時対応		4.6
3.1 BCPの有無		4.0
3.2 消防訓練の実施		5.0
3.3 AEDの設置		5.0
Qw5 プログラム		5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		5.0
2 情報共有インフラ		5.0
3 健康維持・増進プログラム		5.0